



月号 クラスだより



ひよこ組



12月のねらい

- ・戸外で歩いたり、見たり、聞いたり、触れたりすることで自然物や環境など様々な物に関心を持つ。
- ・わらべうたやリズム遊びなど音楽に合わせて身体を動かして遊ぶ。

<おんなじ、おんなじ>



まわりのお友だちに興味が出てきたひよこ組のこどもたち。おもちゃを手渡してあげたり、ポットン落としをしている子の隣で「てー！（やって）」とタッパーの開け閉めを保育者に手伝ってもらいながら同じようにポットン落としをして遊んだり…お友だちと同じことをするのが楽しそうです。

言葉の理解が進んで語彙も増えてきました。最近では歌が好きな子が「きらきらぼし」や「かえるのがっしょう」「ひげじいさん」の歌をそれらしく口ずさむと、まわりの子もそれとなく歌い始め、何人かで合唱が始まることもあります。また、握りおもちゃや鈴が入っているキューブを振ったり身体を左右に揺らして、一緒に歌を楽しんでいます。

芽生え始めたお友だちへの興味を大切に、「おなじ」や「いっしょ」をたくさん楽しんでいけるように、同じおもちゃをいくつか用意したり、保育者も一緒に遊びを盛り上げながらこどもたちがお友だちと関わる楽しさをたくさん味わえるようにしていきたいと思います。



りす組



12月のねらい

- ・保育者に仲立ちされながら友だちと言葉のやりとりをする。
- ・保育者や友だちと見立てあそびを楽しむ。

<お砂場楽しいね>

毎日元気いっぱいなこどもたち。晴れた日は園庭で砂場やボール遊びなどで遊ぶことも多くあります。「園庭で遊ぶよ～」とお話しをすると「砂場で〇〇作る～」と張り切って園庭に向かって行きます。

砂場用の遊具を出すと、型抜きや入れ物、スプーンやシャベルを選んでごちそう作りが始まります。ドーナツやおにぎり、お団子などの型抜きやお皿やお鍋、フライパンなどの入れ物に砂を入れて自分ですくってもぐもぐと口を動かしながら食べる真似を楽しんでいます。保育者や友だちに「できたよ～」と自分で作った物を持って来てくれたり、テーブルにたくさん並べてまるでパーティーのように見立て遊びを楽しむこどもたちです。

砂の感触が苦手だったりあまり興味を持てなかった子も砂場遊びの経験が増えていくにつれて保育者と一緒に食べ物を作って砂の感触を楽しめるようになってきました。砂は器に入れてごはんに見立てたりバケツで大きな型抜きをすればケーキに、水を少し混ぜて握ればお団子に、もっと水を混ぜれば大人が飲んでいる憧れのコーヒーにもなります。

この「見立てて遊ぶ」ということが2～3歳のこどもたちにとって生活を再現して遊ぶことにとっても大切になってきます。また他にも、友だちとやりとりしながら遊ぶことでさらに楽しくなり、ことばのやりとりも増えていくことでしょう。これからも沢山砂遊びを楽しんでいきたいと思っています。





うさぎ組



12月のねらい

- ・フェルトやチェーリング、スポンジなどを使って、ごちそう作りなど、ままごと遊びなどの再現遊びを豊かに楽しむ。
- ・「かして」「いれて」「だめよ」「やって」等、自分の気持ちを言葉にして伝えようとする。

<一緒に遊ぼう>

ひとり遊びが充実していく中で、最近ではお友だちとの関わりもよく見られるようになってきました。

近くで遊ぶ友だちの様子に興味を示し、「一緒に遊びたい」という気持ちが芽生えてきています。言葉でのやり取りも増え、「かして」「まってね」

「いれて」など、思いを言葉で伝えようとする姿も増えています。「こうしてみよう!」「こうしたらいいんじゃない?」と、同じイメージを共有しながらままごとを楽しんだり、ブロックで一緒に何かを作ったり、こどもたちだけで遊びを展開していくこともよくあります。

一方で、興味はあるものの実際にどう関わっていいのかわからず、そばでじっと見つめていたり、思いがぶつかって思うようにいかないこともあります。そんな姿も“一緒にあそびたい”“ぼくもやってみたい”という気持ちの表れだと感じ、こどもたちが自分たちで解決しようとする姿を見守ったり、時に保育者がお互いの気持ちを代弁しながら仲介に入っています。

意見が食い違ったりイメージが異なっても、相手の話を聞こうとする姿が少しずつ見られるようになり、友だちと過ごす楽しさを感じているこどもたちです。

これからもこどもたちが気持ちを伝え合いながら、お友だちとの関わりを楽しめるよう、見守っていきたいと思います。



ちゅうりっぷ組



12月のねらい

- ・再現遊びやごっこ遊びを繰り返し楽しむ。
- ・身の回りのことを自分でしようとする。

<絵本が大好き>

こどもたちは絵本が大好きです。おもしろい話、不思議な話、わくわくする話。どんな話でも食い入るように絵を見つめ、じっと黙って話を聞いています。

小さい頃は絵の面白さや、「あーん」「おいしいね」「どーこーだ」など、大人とのやりとりを楽しんできましたが、話の面白さがわかるようになってきました。お話の世界にぐーっと引き込まれ、読み終わった後には自分の感じたまま、「おもしろかったー」とか「すごいしょうげきだったね」と感想を言ってくれます。この感想がまたすごく面白いのです。そして、遊んでいる中で絵本の場面を再現して遊ぶ姿も見かけるようになりました。

これからも絵本をたくさん読んで、こどもたちが楽しんだり、驚いたり、ちょっとでいいから興味を持ってくれたらいいなと思っています。ちなみに、今のこどもたちの好きなキャラクターBest3は、おおかみ・やまんば・おばけです。これ、毎年人気のキャラクターです!





さくら組

12月のねらい

- ・自分の気持ちを伝えるだけではなく、相手の気持ちを聴こうとする。
- ・友だちとの共通のイメージをもち、自分たちで遊びを進めていく楽しさを味わう。

<さくら組リレー>

最近体力がつき足が少しずつ速くなってきたこどもたち。グーチームとパーチーム2つのチームに分かれ、さくら組リレーに挑戦しています。リレーと言ってもリュックを目印にして回り、バトンの代わりに友だちの手にタッチするリレーです。もみじ組の運動会のリレーの印象も大きいのか真剣な表情で走る子もいます。やはり負けると悔しいのでしょう。「もう1回やる」と言い、再度行うことが多く、チームで走る順番を決めています。ほとんどの子が「1番がいい」「最後がいい」と言い、主張が重なることも多いです。「ジャンケンね」と言い合いながら順番を決めています。さくら組も後半、集団だからこそできる活動や遊びが少しずつ成り立ってきているので、これからたくさん楽しんでいきたいと思います。



もみじ組



12月のねらい

- ・経験したことや想像したことを、言葉・身体・音楽・造形などで表現する。
- ・集団遊びや劇遊びを通して、友だちとのつながりを深めたり、互いのよさに気づいたりする。

<絵本作りたい！>

やきいも会の日、『おおきな おおきな おいも』という絵本を読んだ際に、表紙に“〇〇幼稚園”と書いてあったのを見て、「あけぼの保育園でも絵本作ったらいいいじゃん！」という声。壮大な提案に思いましたが、ちょうど友だち同士で誘い合って『スイミー2』を作った2人組がいたことをきっかけに、クラス全体での物語作りが始まりました。

まず行ったのは、おなじみとなった“もみじかいぎ”。「どんな話がいいかな～」と、ややふんわりとしたところから話し合いを始めましたが、「魚たちのパーティーは？」というアイデアがあげられると、「いいねー！」と一瞬で気持ちがひとつに。“〇〇〇パーティー”と称してクッキングを楽しむことが多いもみじ組らしいテーマです。そこからは、溢れるように新たなアイデアが。「歌、うたうとか？」「別々で見せたらいいんじゃない？（何匹かに分かれて得意技を披露する）」「イルカのマジックショーは？」「いいかもー！」等とアイデアをクモの巣状に書き出すうちに、「夜ごはんは、みんなでカレー作ったら？」

「夜は花火して～」「最後は“さよならの会”したらいいい」と、夏に行ったお泊まり会をなぞった内容が沢山あがるようになっていきました。お泊まり会は“全員が同じ経験した”ということもありイメージもしやすかったのでしょう。「うんうん」「いいねえ」と頷き合いながら、あっという間にお話の内容が完成！各ページの担当を決め、絵の具・油性ペン・色鉛筆等、様々な画材を使って、何日かかけて絵本の制作に取り組みしました。

1回目の話し合いの時から、「緑色の衣装着るとか？」「『おんがくかいのよる』みたいに皆で歌ったらいいいんじゃない？」等、劇遊びを思わせるような声がきかれていたこともあり、流れはそのまま〈成長を祝う会〉へ。どんな舞台になっていくのか、日々の変化も見守っていききたいと思います。

